



てらるる



2023年
5
No.905

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「むすんでひらいて」

日本福音ルーテル健軍教会・甲佐教会牧師 安井宣生

(イエスは)言われた。「聖霊を受けなさい。」

ヨハネによる福音書20章22節



健軍教会のシンボルツリーはハナミズキです。蕾のような包葉は花を覆ったまま膨らみやがてそれは頂点を残して裂けるように開きます。そのまま大きくなった後、上に残った結び目をほぐくようにして広がります。文字通り、結ばれていたものが開き中の小さな花が姿を現してゆく。とても不思議で美しく、結び目が解けるまでの緊張感と共にその優雅な姿に心を動かされます。

登場し、私たちがよく知る歌となつていきます。日本の教会では歌われなくなるも、世界では現役の賛美歌です。「主よ、あなたの祝福で私たちが解き放つてください。私たちがの心を喜びと平和で満たしてください。荒野を旅する私たちが新たにしてください」と歌われます。この歌は神のわざとそれによる解放を歌うのです。

「すべての戸」として、私たちは複数です。弟子たちは恐れあまり、いくつもの戸を閉ざして一番奥の部屋に閉じこもっていました。もしくは実際の戸は一つであったとしても、弟子たち一人ひとり心の戸を閉ざしてしました。裏切り見捨てたイエスが処刑され、自分も逮捕されるかもしれない、これまでの充実した日々が覆される事態に恐れおののいていました。この人たちが守るものが「戸」でした。それを固く閉ざし、息を殺し、震えて潜み、落ち込んでいたのです。しかし、この弟子たちの真ん中にイエスが来しました。そして弟子たちに息を吹きか

よって、私たちが「むすんでひらいて」、そして「むすぶ」出来事です。それは赦し赦されるという一点で関係を結び合わせ、その緊張を保ちつつ花びらのような葉を広げるハナミズキのように、健気で美しい姿で希望を与えるものとなるのです。ペンテコステは教会の誕生と呼ばれていますが、教会とはまさに赦され、赦すことにより解放され深く結び合うための器として生まれました。連なる一人ひとりはその器の大切な一部です。

イエスターの夕方に弟子たちは恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけて「(19節)いました。口語訳聖書では「戸をみなしめて」、岩波訳聖書では

その手と脇腹に傷を負うことで愛情を注いでくださったイエス・キリストが、たとえ見ることが触れることができなくとも、息を吹きかけ続け、つなかりを持ち続けてください。花は散つてもそこに咲いていることを思い描けるように、姿はなくとも祈りの言葉で心を通わせ合うことができるように、イエスの息もイエスの声も確かにあり、私たちはそれを抱き続けるのです。

『むすんでひらいて』は広く知られています。ルソーが作曲したオペラの曲だそう。やがて讃美歌となり、日本でも『キミノミチビキ』というタイトルで明治・大正時代の教会で歌われました。やがて唱歌となり『見渡せば』と春秋の美しい風景を歌い、さらに戦中は軍歌『戦闘歌』となりました。そして戦後、小学1年生の教科書に『むすんでひらいて』として

「むすんでひらいて」は広く知られています。ルソーが作曲したオペラの曲だそう。やがて讃美歌となり、日本でも『キミノミチビキ』というタイトルで明治・大正時代の教会で歌われました。やがて唱歌となり『見渡せば』と春秋の美しい風景を歌い、さらに戦中は軍歌『戦闘歌』となりました。そして戦後、小学1年生の教科書に『むすんでひらいて』として



健軍教会のハナミズキ



『むすんでひらいて』は広く知られています。ルソーが作曲したオペラの曲だそう。やがて讃美歌となり、日本でも『キミノミチビキ』というタイトルで明治・大正時代の教会で歌われました。やがて唱歌となり『見渡せば』と春秋の美しい風景を歌い、さらに戦中は軍歌『戦闘歌』となりました。そして戦後、小学1年生の教科書に『むすんでひらいて』として

『むすんでひらいて』は広く知られています。ルソーが作曲したオペラの曲だそう。やがて讃美歌となり、日本でも『キミノミチビキ』というタイトルで明治・大正時代の教会で歌われました。やがて唱歌となり『見渡せば』と春秋の美しい風景を歌い、さらに戦中は軍歌『戦闘歌』となりました。そして戦後、小学1年生の教科書に『むすんでひらいて』として



伊藤早奈

⑳「ぬくもりの中で」

「神の前では、わたしもあなたと同じように、土から取られたひとかけらのものにすぎない。」(ヨブ記33:6)

空を見上げてみると「あー雲が変わつて。季節が変わつてきているんだ。」としばらく上を見てからふと下を見ると、冬のあいだは枯れ葉が土を温めるかのようになつていました。

テレビドラマで何度か人が枯れ葉の下に潜って暖をとる姿を見たのを思い出しました。「冬のあいだ枯れ葉が土を寒さから守つてたんだね」と思っている。誰に教えていただく？ 私たちは全ての世界をご存知の神様を知つてみませんか？

土の上の枯れ葉の上に白いものが降つてきました。「あれ雪？」よく見るとそれは小さな白い花びらでした。土の上に枯れ葉、枯れ葉の上には花びら、なんか素敵だなあと思ひ、枯れ葉の下を覗くとひよつこりと緑の草が、あれ挟まれて。春と春のあいだに冬がサンドされている。このように季節つて変わつていくんだなあと思ひます。しばらくすると土の上は断然、緑色の草がいつぱいになります。目に見えて手で触れる世界でもこのようにいつぱい素敵な変化があるなら、きつとそうではないいろいろな世界にも素敵な変化が生まれているんだらうなあと思ひ、ワクワクします。

英語×異文化×聖書 国内ワークキャンプ!

JELA x WARI Foundation

English Bible & Work Camp 2023

日程: 7/30(日) ~ 8/5(土)
会場: 学校法人 アジア学院
対象: 中学生・高校生
募集人数: 10名 (先着順)
参加費: 5万円
申込方法: 下記QRコードからお申し込みください!
申込切: 6/15(木) 必着

お申込みはこちら!!





議長室から 大柴 謙治

記すと決めていました。この詩編を愛唱聖句とされ

羊飼いきリスト

の名教会さんぽ(エクスマレッジ2017, p.85)にも



解説

「教会讃美歌 増補」

この歌詞は、ヨハネの黙示録12章が背景となつて

が出るように群れの周りを走り回っている牧羊犬の

世界の教会の声



支援を続けています。1年が経過して、パブロ・シユ

星も、マリアの聖画のモチーフに使われています。

図がはつきり伝わるように、「彼女は教会」という歌

味わう歌詞に訳しました。人生に訪れる苦難、そ

「私たちは小さな教会です。ウクライナの他の都市

なく個人レベルです。その方がごまかしもなく必要

コミュニティ・カフェ@大久保・高田馬場 〜出会い、交流、相談、憩いの場となるように

松本義宣
 (東京教会・東京池袋教会
 ・板橋教会(牧師))

東京教会「牧師カフェ」、前任の関野和寛・後藤直紀両牧師時代に、地域に開かれた「カフェ」と「メニューサービス」という折りと音楽の会が、毎週水曜日に行われていました。が、コロナ禍のため休止となり、また担当奉仕者の確保等の課題もあり、再開を模索中でしたが、国内外の災害支援を担う特定非営利活動法人「CWS Japan」(Church World Service Japan、A C T ジャパンフォーラムをNCCと共に組織)との共催で、新たに「コミュニティ・カフェ」(仮称)を開店(予定)することとなりました。CWS Japanは、外国人が多く住み生活する大久保で、特に災害時に自治体からの支援が届かない外国の方々に、どんな支援が可能かを模索し、地域との協力、協働を探り、まず状況把握から始め、生活相談会の開催等の会場提供から、私たち東京教会との関係が始まりました。教

エキユメニカルな交わりから

⑭NCC神学・宣教委員会
 宮本新
 (ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校専任講師)

日本キリスト教協議会以下NCCと表記には、「宣教・奉仕」、「国際」、「総務」、「神学・宣教」という四つの部門があります。今回紹介する神学・宣教委員会はその一部門である「神学・宣

会を会場に、地域の方々の「出会い、交流、相談、憩いの場」の提供はできないかと話し合い、以前の「牧師カフェ」のノウハウを生かして取り組むことにしました。これは、地域貢献を目指す教会とする団体との出会い、コラボ企画になりました。教会は「場所はある、しかし、働き手がない(地域居住で継続的奉仕が可能な教会員はいない)」、一方、CWS Japanは、「ボランティア活動の人員はいる、しかし、場所がない(拠点がない)」で、いわゆる「ウィンウィン」が成立したのです。とりあえず、毎月第



一緒に作



ライブ演奏

1、第3水曜日の午後1〜5時に「営業(ワ)」以前の「カフェ」に倣い、ライブ演奏や展示、また今回は、在日外国人のための相談業務も専門家が常駐し、日本語教室や、参加者による自慢の外国料理教室(及び楽しい試食会?)等も行つていきたいと思つています。ただ以前と違うのは、伝道として教会の地域奉仕の業ですが、「布教」はしません。もちろん、希望があれば個別の「牧師とおしゃべり」はできますが、基本、どんな宗教・信仰の人も自由に集い、語り合い、尊重される「コミュニティ・カフェ」を目指したいと願つています。

「部門」に属し、協議会とその活動について神学的側面からの検討、また宣教会議を組織するところに目的があります。宣教と神学は、「理論と実践」というようにしばしば別々の事柄として、対立するかのよう議論されることがあります。しかしこうした委員会が存在することは、神学と宣教が元々コインの表と裏のような関係にあることを考えてきたのかもしれない。宣教には、人が人となしていくことと、神を前に祈り思索する両面があり、すから、かならず振り返りと話し合いが必要になります。神学する場面はここにあるのだと思つます。

近年の委員会活動にとつて、2019年に開催されたNCCの宣教会議、そしてとりわけコロナ危機が大ききことでした。そこでの諸教会の経験を受け止め、神学的作業の遂行が求められていました。特に教会の取り組みが中断する中の困難、オンラインの

エルスベス・ストロームさん記念会の報告

秋山仁
 (聖岳教会牧師神戸東教会
 喜望の家代表)

かつてドイツ・ブラウンシュヴァイク福音ルーテル領邦教会の宣教師として、大阪市西成区の日雇い労働者の町、通称「釜ヶ崎」で働かれていたエルスベス・ストロームさんは、昨年10月5日、享年100歳で天に召されました。11月5日には、葬儀が南ドイツのシュヴァンベルクで行われましたが、日本でも彼女の働きを記念して、今年2月18日、喜望の家主催で記念会を行いました。開催にあたっては、生前のストロームさんの思い出を分かち合うだけでなく、釜ヶ崎の内外で働いている自分たちが、何を彼女から提起され、今も受け継いでいるのかを語ってもらおう会として企画しました。

午後1時から追悼礼拝を行い、その後は、シンポジウム形式で、生前のストロームさんと交流のあつた前島宗輔牧師(日本基督教団隠退教師)、森本典子さん(日本福音ルーテル賀茂川教会会員)、前島麻美さん(前・山王こどもセン

ター代表、原野和雄(日本基督教団隠退教師)夫妻からお話を伺いました。また会場からは、釜ヶ崎キリスト教協議会のメンバー3人が、それぞれ発言してくださいました。その他にも小柳伸顕さん(元関西労伝専従)と、かつてストロームさんと一緒に働かれていた田頭夏子さん(山王ベビーセンター職員)から、それぞれ手紙でメッセージが寄せられ披露されました。会の最後は、大柴譲治総会議長にご挨拶いただきました。それぞれの証言からは、彼女の人物や各々が受けた影響を知ることができました。特にストロームさんがいたからこそ、釜ヶ崎地域でのカトリックとプロテスタント諸教会・施設の共同の活動が、協友会という形で始まったこと、また目の前の課題に対する彼女のぶれることのない姿勢が、山王地区での保育事業(山王ベビーセンター)や、釜ヶ崎でのアルコール依存症に対する活動(喜望の家)につながっていたこと等の報告は、改めて今日の私たちが、彼女から受け継いでいるモノへの責任を強く感じさせられました。

喜望の家での記念会の様子



2022年2月100歳の誕生日の際のストロームさん

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校の 新年度が始まりました

石居基夫
(ルーテル学院大学 学長)

2023年度のルーテル学院大学は、総合人間学部48名編入学を含む、大学院15名の新入生を迎えました。また日本ルーテル神学校には牧師養成コースに佐藤孝洋さん(NRK札幌中央ルーテル教会)、澤田春貴さん(NRK飯能ルーテル教会)の2名の新入生を迎えました。4月3日、感染

が収束しつつある状況を受け、久しぶりに大学大学院と神学校がそろった形の入学式を行い新しい学生生活をスタートいたしました。神学校では、さらに翌4日に入学始業聖餐礼拝が行われ、立山忠浩校長の説教「協働と自己研鑽」によって新年度への歩みを始めました。

大学の改革

今年から大学では新しいカリキュラムを用意して学生たちを迎えました。

これまでと同様に社会福祉士や公認心理師の資格取得可能な「社会福祉学系」「臨床心理学系」のキャリアプログラム、そしてキリスト教を軸とした「人間学系」では、「聖書を基礎としたキリスト教的人間理解」「人間の尊厳・人権と倫理」「宗教と文化」、また「スピリチュアル・ケア」や「子ども支援」の科目群を整えました。困窮する現代に、「共に生きる社会」を実現する人材育成を目指しています。

学生寮の閉寮

15年前に全国の教会からご支援もいただいた改修されたルター寮ですが、今の学生を迎えるための施設的課題もあり入寮者減、そして危機管理上の課題もあり、学生受け入れが困難と判断し、閉寮の決断に至りました。JELCの神学生

育成を目指しています。チャプレンは、河田優チャプレンが兼任体制へと変わるため、近隣の牧

師(平岡仁子、坂本千歳、李明生、高村敏造)を加えたチーム体制で臨むこととなりました。



日本ルーテル神学校・入学始業聖餐礼拝にて

活の場所とすることとなりました。今後の寮棟利用については、チャペルも含めて神学校生全体の共同性を培う施設として利用してまいります。これまでの寮維持のためのご支援に深く感謝申し上げます。

第30回春の全国teensキャンプ報告

森田哲史
(宣教室TNG委員会 teens部門)
大江教会牧師

新型コロナウイルスの感染拡大のため、2019年を最後に対面での開催を見送ってきた「春の全国teensキャンプ」(以下、春キャンプ)でしたが、今回4年ぶりに対面での春キャンプを開催しました(2021、2022年はオンラインにて開催)。

コロナ前は例年80名以上の参加者が与えられていました。しかし、今回は対面開催の間が空いてし

まったこと、小学5・6年生を対象にしたこともキャンプも同様に開催が見送られてきたことなど理由から、参加者は41名となりました。これまでの理由から、参加者は41名となりました。これまで春キャンプは、信仰のこと、聖書のこと、普段の生活のことなどを同世代の信仰者と共に、心を開いて語れるコミュニケーションとしての役割が与えられてきました。teens部門では、そのコミュニケーションをいかに作り直すか、というところが今回の大きな課題と考え、準備を進めてきました。

今年のテーマは「REUNION」

「再会」として、信仰の友との再会を喜び、何よりも神さまと再び出会う場となることを願い、プログラムの準備を行いました。聖書の中のとえ話などを現代風にアレンジした劇を作り、身近な経験を通して出会う神様の存在を考えました。また、閉会礼拝では参加者全員で連祷を行い、私たちはひとりぼっちではなく、どんなときも神様や仲間たちと愛で結ばれているという恵みを味わいました。

各教会を始めとする多くの方の祈りと、各教区、女性会連盟、JEL Aなどの皆さまのお支え

によって、恵みのうちに終了することができました。感謝して報告に代えさせていただきます。

第30回春の全国teensキャンプ概要
開催日程
2023年
3月28日〜30日
会場
千葉県自然少年の家
テーマ
REUNION
主題聖句
「わたしの目にあなたは価値高く、貴くわたしはあなたを愛しあなたの身代わりとして人を与え国々をあなたの魂の代わりとする」(イザヤ43:4)



参加者
41名(東9、東海17、西3、九州12)
スタッフ
16名
キャンプ長
森田哲史牧師
チャプレン
中島和喜牧師
プログラムのねらい
神様はどんな時も私たちのことを愛してくださっていることを知る。

東海教区教会会計支援ソフト L-CAS easyの紹介

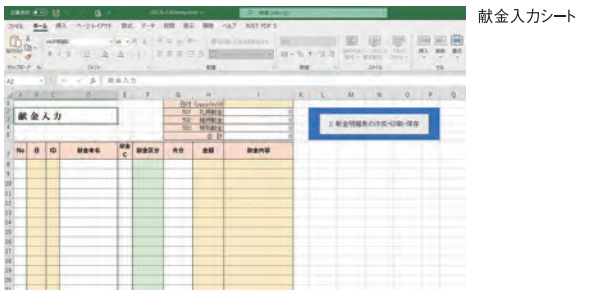
牧師の複数教会の兼任や、役員の方々のなり手不足や事務労力の多さが重荷ともなりがちですが、現場支援のため東海教区では支援ソフトを提供してまいりました。今回、より使いやすいものが発表されましたが、お声掛けをいただいたので全国にも、担当者からご紹介いたします。

(東海教区教区長・徳弘浩隆)

ここ数年、情報の電子化や各個教会でのITの活用(2021年に「IT環境整備に係る補助金」を実施)を推進しておりますが、このほど各個教会での会計処理の支援を目的として、教会会計支援ソフト・L-CAS easy(エルキヤスイージー、以下「イージー」)を開発し、今年の教区総会でご紹介し、利用をお呼びかけしています。

イージーは、2018年より提供されてきましたL-CAS lite(エルキヤスライト、以下「ライト」)とつづ、「Excelベースのパソコン用ソフトの後継です。L-CAS liteは、教会で共有使用しているような、特定のパソコン

にインストールして使用することを想定していましたが、マクロ機能をとめたメニュー画面から作業を行うスタイルでした。しかし、会計担当者が変更になっても、各自のパソコンで手軽に使用、機能を限定してもよいので、もう少し簡単に操作できるものが欲しい、という「声」を受けて開発されました。イージーの特長は、メニューベースではなくシート単位の簡単操作で処理を完結できる点、主なデータ入力は、「献金者管理」、「出納入力」、「献金入力」の3つのシートで、これらの入力を行えば、「献金明細表(主日毎)」、「月次出納帳」、「収支表(直近3



献金入力シート



L-CASeasy

